

# 学校教育評価 1 学期アンケート結果、及び 昨年度 4 月との比較による考察

アンケート実施：平成 30 年 7 月（数字は%）

調査人数：全校 229 人（低学年 129 人・高学年 100 人）

保護者アンケート児童数配布 回答数 205 人（家庭数 162 戸）

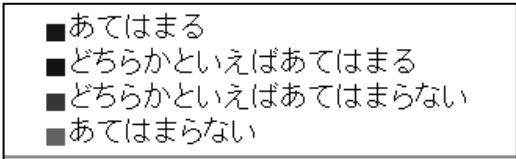
教職員 21 人

評価：A（あてはまる）

B（どちらかといえばあてはまる）

C（どちらかといえばあてはまらない）

D（あてはまらない）



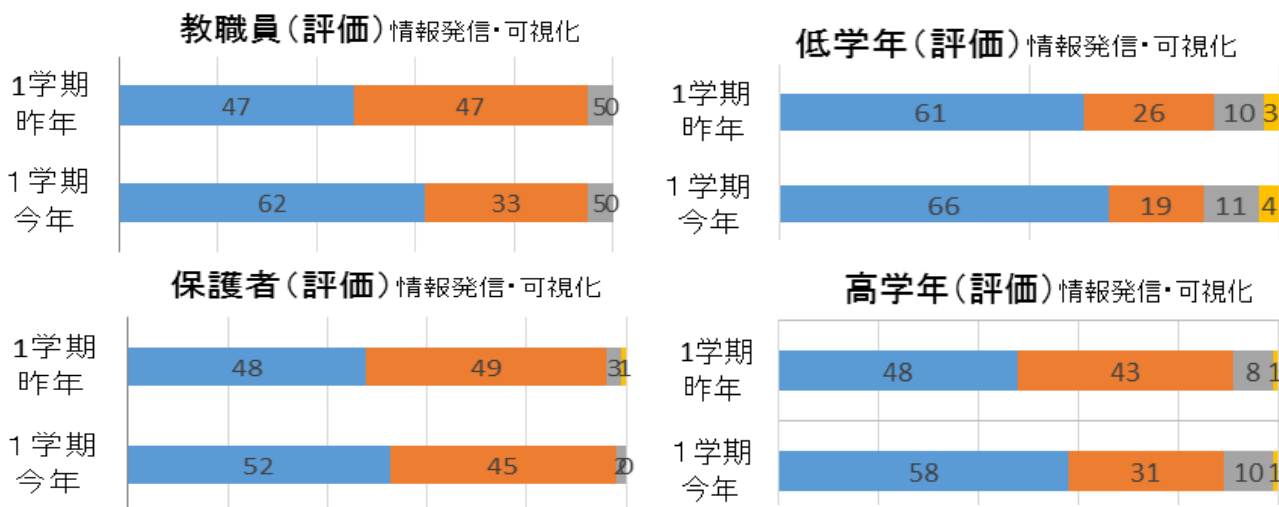
## 1. 開かれた学校づくり

日常の学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。		%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+B が 90%以上	問 1	62	33	5	0	A	A
	B：A+B が 70%以上	問 2	52	38	5	5	A	
保護者	A：A+B が 90%以上	問 1	52	45	2	0	A	
	C：上記以外							
児童	A：A+B が 90%以上	問 1	62	24	10	3	B	
	B：A+B が 70%以上	問 2	72	17	5	6	B	

**教職員**（問 1）学校からの家庭や地域への情報発信（学校・学年・学級だより、ホームページも含む）はよくできていると思う。

**保護者**（問 1）学校便り、学年便り、学校からの様々なお知らせ文書により、学校の様子がよくわかる。

**児童**（問 1）学校からのプリント類は、必ず家の人に渡し、見てもらっている。



〈情報発信と可視化について〉

学校・学年・学級通信、ホームページの更新（学年月 1 回更新・校長室だより）、毎月 15 日の「学校へ行こう Day」をはじめとするオープンスクールの実施などによる学校からの情報発信については、積極的に取り組んできた。また、本年度からは、保護者向けの連絡方法として「安心メール」を取り入れ、火災や大雨による引き渡しや下校時刻の変更、行事などの連絡にも活用してきた。教職員、保護者のアンケート結果では、昨年度も本年度も、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」の割合が 90% 以上であるので、積極的な情報発信ができたと考える。

児童については、「学校からのプリント類を必ず家の人に見せているか」の問いに、低学年も高学年も、「あてはまる」割合が高くなっているものの、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」の割合が 90% に至っていない。また、高学年より低学年の方が、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と答える児童の割合が高い傾向にあるので、丁寧な指導が必要であると改めて感じた。家庭の協力依頼や個別での声掛けなどにより、配布物が確実に家庭に届くようにしていきたい。

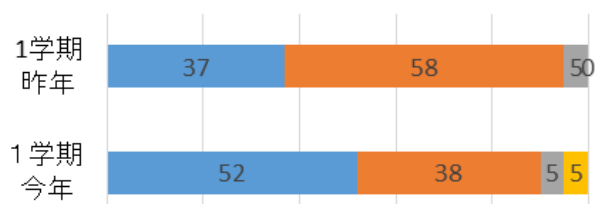
教職員

(問2) 子どもの学習活動の取組がよく見えるように、掲示の工夫をしている。

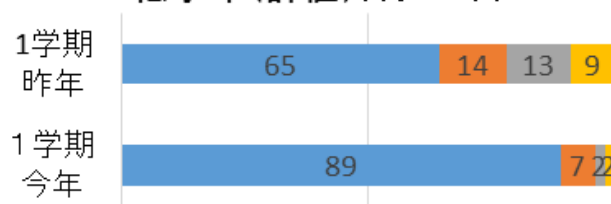
児童

(問2) 自分が、がんばったことが、教室やろうかに、はってある。

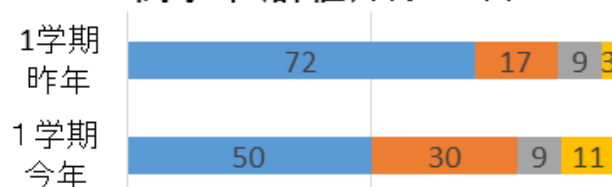
教職員(評価) 掲示の工夫



低学年(評価) 掲示の工夫



高学年(評価) 掲示の工夫



〈掲示の工夫について〉

低学年では、96%の児童が、自分の頑張ったことが教室や廊下に貼ってあると答えており、昨年度よりもその割合が高くなっている。高学年の児童については、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と答えた割合が、80%と昨年度より10%近く低くなっている。高学年では、積極的な成果物の掲示と合わせて、その頑張りに対する先生や友達の評価を与えることが必要になってくると考えられる。

教職員についても、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」割合が90%と高いが、「あてはまらない」「どちらかというにあてはまらない」割合が10%となっており、教職員の取組の向上も必要である。

## 2. 生活指導

### 【生活指導】

家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。		%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 3	5	71	24	0	B	B
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 2	28	53	17	2	B	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 3	62	33	4	1	A	

教職員

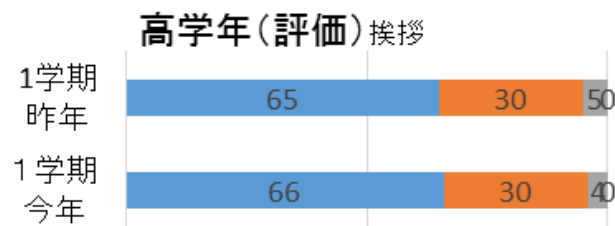
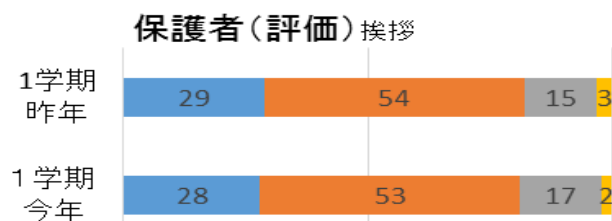
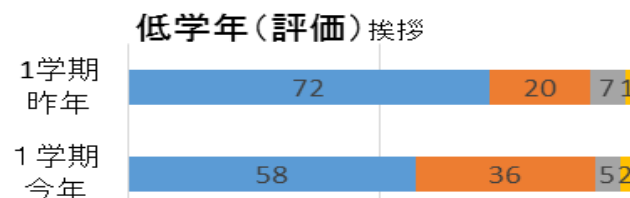
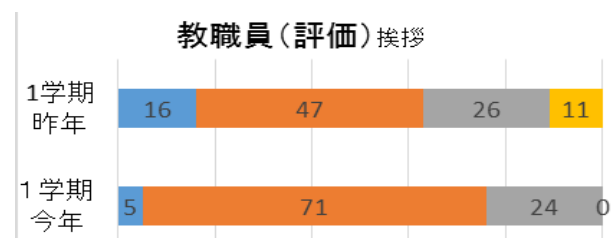
(問 3) 子どもたちは、学校でも地域でも挨拶するようになってきた。

保護者

(問 2) 自分の子どもは、家でも、学校でも、地域でもよく挨拶をしている。

児童

(問 3) 家でも学校でも、地域でも自分から進んであいさつをしている。



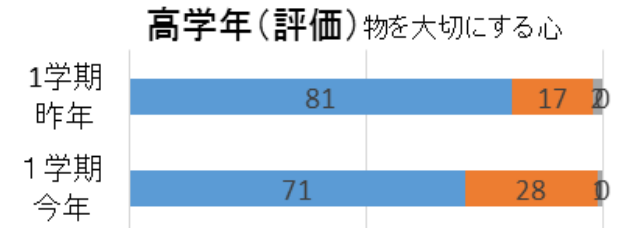
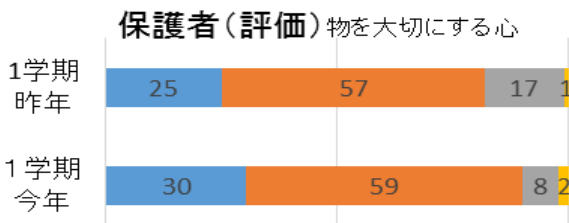
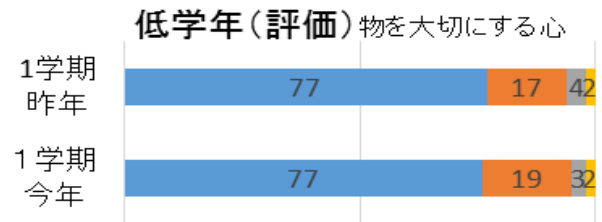
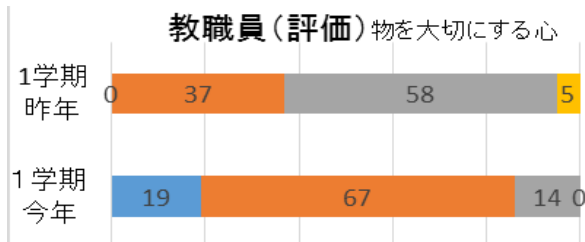
〈挨拶について〉

あいさつについては、おこなっているのだが、積極性が高いわけではない。状況についても、昨年度に比べ、低学年の子どもたちの意識に積極性の低下が感じられるが、全体としては、昨年度の様子とあまり変化がない。今後、子どもたちに再度あいさつの意義や効果を伝え、必要性を感じさせながら継続して指導していく必要がある。具体的な指導については、朝起きてからの家庭、通学時、学校において30人以上にあいさつを返してもらうことを数値目標とする。

【生活指導】

自分の持ち物やみんなが使う物を大切にすることを育てる。		%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 4	19	67	14	0	B	B
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 3	30	59	8	2	B	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	問 4	74	23	2	1	A	

- 児童 (問 4) 自分の持ち物や、みんなでする物を大切にしている。  
保護者 (問 3) 自分の物や、みんなでする物を大切にしている。  
教職員 (問 4) 自分の持ち物や、みんなでする物を大切にしようとする心が育ってきた。



〈ものを大切にする心について〉

物を大切にしようとする気持ちは概ね育ってきているように感じている。これは、生活目標の中に、「人・物・時間」を大切にしようという月目標を設定し、啓発を続けてきた成果によるものだと考えられる。また、学校だけでなく、家庭でも同様に子どもたちが物を大切にしようとする心がけているように思われるため、この考え方が子どもたちに定着してきたようにも思う。低学年から高学年になるにつれて、若干数値が下がっているところもあるので、継続して啓発を続けていく必要がある。

### 3. 学習指導

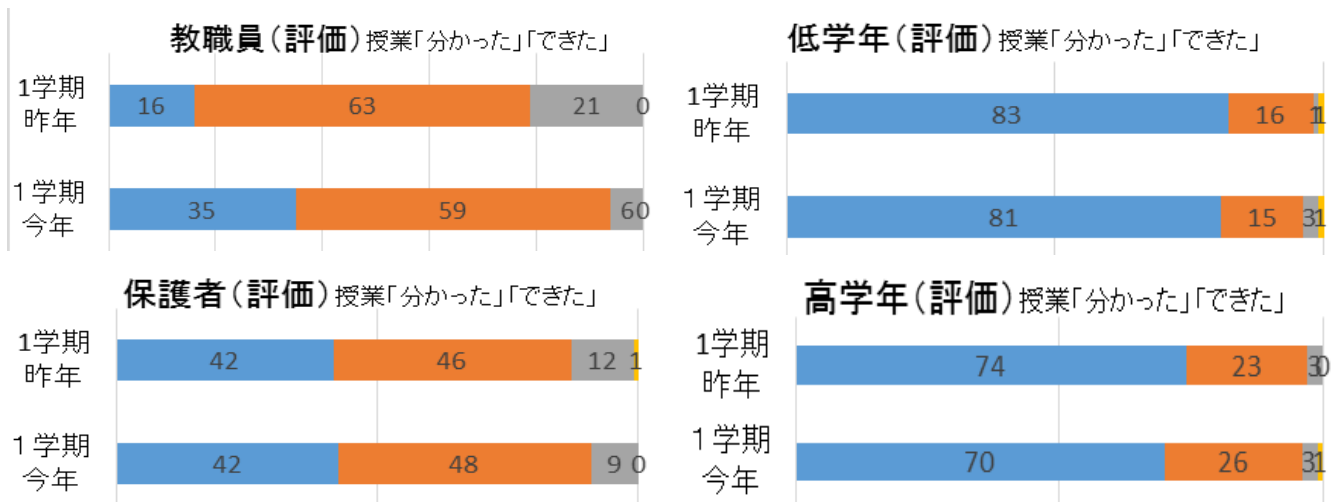
#### 【学習指導】

「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「分かった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。			A	B	C	D		達成状況
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問5 26	53	21	0	B A	A
保護者	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問4 42	48	9	0	A B	
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問5 76	20	3	1	A A	

**教職員** (項目5) 授業の中で、児童が「わかった」「できた」と言っていたり、振り返りで書いたりしている。

**保護者** (項目4) 学校の勉強で、分かることやできることが、ふえたと言っている。

**児童** (項目5) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。



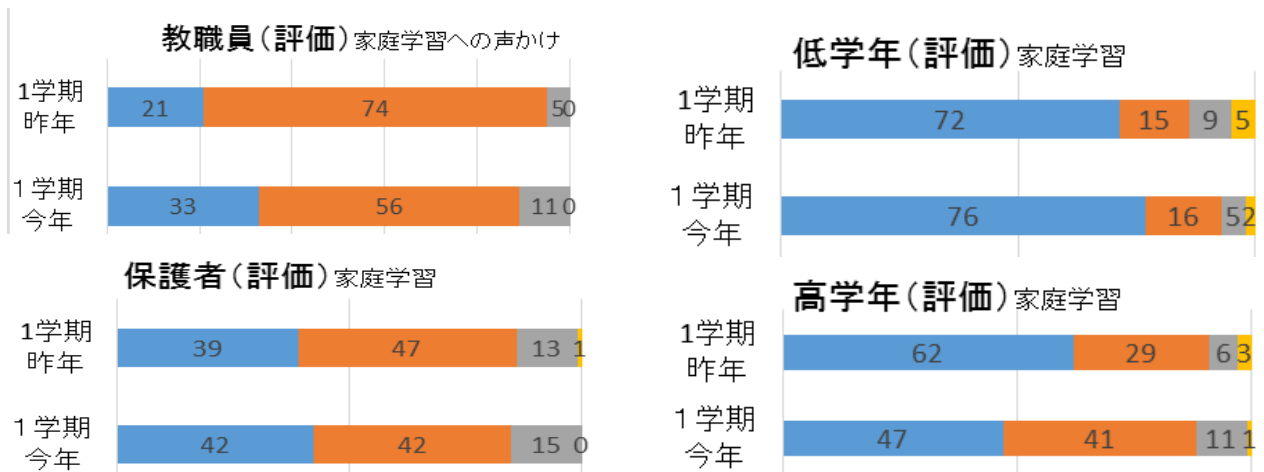
〈「分かった」「できた」と実感、学ぶ意欲について〉

「勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。」と答えた児童は、昨年度に引き続き多かった。保護者も、教職員も昨年度に比べて、高い評価となった。日頃から、児童一人ひとりを大切にして、授業づくりを行ってきた成果であると考え。今後も授業研究を通して、教職員間の学び合いや認め合うことを大事にしながら、児童の実態に合わせて「分かった」、「できた」と思える授業の工夫改善をしていく。

**教職員** (項目6) 家庭学習の質の向上につながる声かけや働きかけをしてきた。

**保護者** (項目5) 家庭学習をがんばっている。

**児童** (項目6) 家庭学習をがんばっている。



〈家庭学習について〉

家庭学習について、児童は「頑張っている」と答えている。多くの教職員の声かけの効果や、保護者の協力が成果につながっていると考えられる。意欲の向上と学習内容を深めるために、1～2年生は家庭学習ノート、3～6年生は自主学習ノートの掲示を行った。年度初めに配布した「家庭学習の手引き」を充実させたり、再配布したりして、家庭学習の充実につなげる。

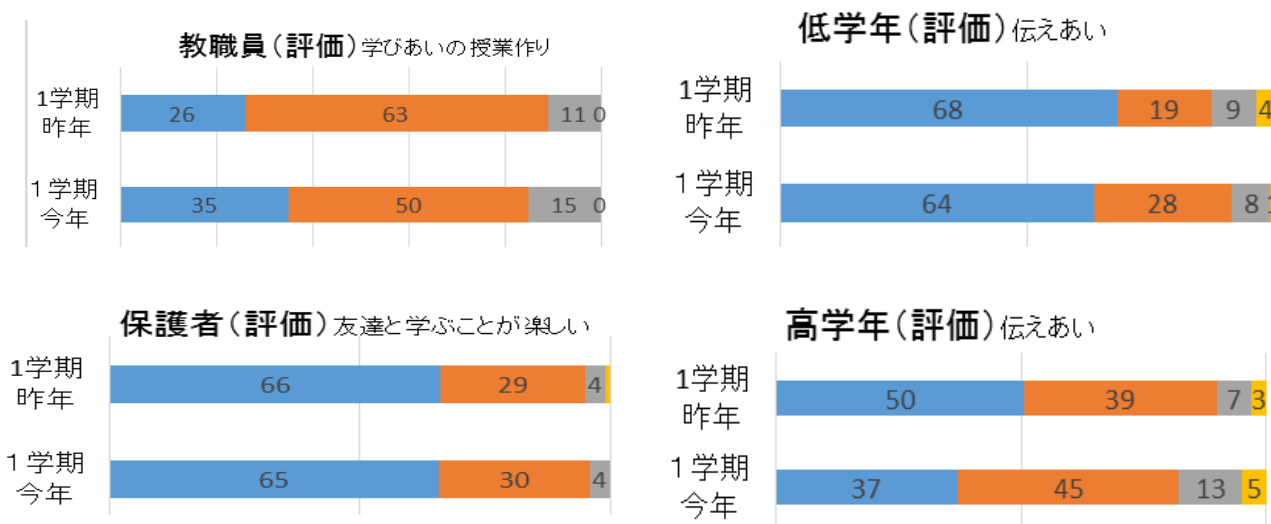
【学習指導】

協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団作りに努める。			A	B	C	D		達成状況
教職員	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問7	35	50	15	0	B
保護者	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問6	65	30	4	0	A
児童	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問7	52	35	10	3	B

**教職員** (項目7) 学びあいの授業づくりをする中で、友だちの意見を聞き、考えを伝える児童が増えてきた。

**保護者** (項目6) 友だちと学ぶことが楽しいと言っている。

**児童** (項目7) 友だちの意見を聞いたり、自分の思いをつたえたりすることができた。



〈学び合いについて〉

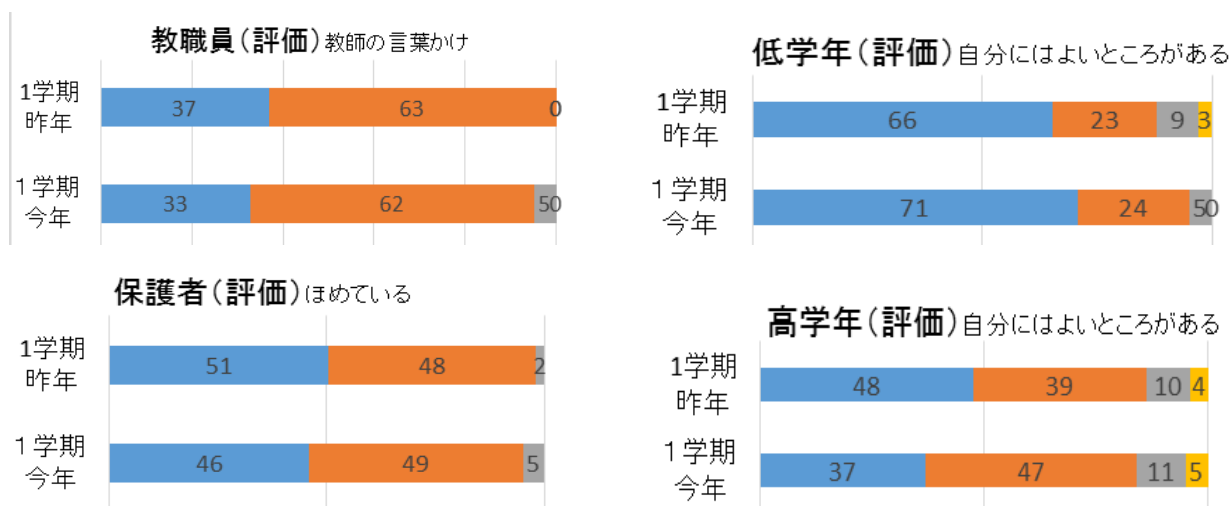
「友だちの意見を聞いたり、自分の思いを伝えたりすることができた。」と答えた児童も多く、子ども同士で意見をつないだり、課題解決を行ったりしている楽しさを感じていると思われる。高学年の中には、「できていない」と答えている児童が複数いる。子ども中心に据えた授業の中で他者とつながった面白さを感じられる授業づくりを行いたい。また、友だちとつながって課題に向き合おうとする経験を積み重ねることで、子どもたち一人ひとりの力が付き、友だちの良さに気づいたり、自分に自信が持てたりする子の育成に今後も努めたい。

## 4. 人権教育

### 【人権教育】

全領域における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を高め、自立向上する子どもを育てる。			%	A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 8 問 9	33 19	62 67	5 14	0 0	A B	B
保護者	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 7 問 8	46 49	49 48	5 3	0 0	A A	
児童	A : A+B が 95%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 8 問 9	56 48	34 39	8 11	2 2	B B	

- 教職員** (項目 8) 子どもの伸びを認める (以前のその子と比べて) 言葉かけの質の向上に努めている。
- 保護者** (項目 7) お子さんのがんばりやよいところをほめている。
- 児童** (項目 8) 自分にはよいところがある。



#### 〈自尊感情について〉

教職員においては、子どもの伸びを認める言葉かけの質の向上に努め、保護者においては、子どものがんばりやよいところをほめることを意識して、子ども達に関わっていることが結果からわかる。子どもをとりまく大人のかかわりが、子ども達の意欲を高めたり、自分の良さに気づいたり、自尊感情を高めたりしていると考えられる。

子ども同士でも、終わりの会にがんばり見つけをしたり、児童会主催の「C-1 グランプリ」では自分の特技を披露したりして、自分のよさや友だちのよさに気づき、自己肯定感が高まってきたと感じる。ただ、高学年の児童については、客観的に自分をみるようになり、友だちと比較することによって自分に自信がもてなくなる傾向があるのではないかと考える。学年が上がるにつれて、課題のハードルが高くなり、簡単にクリアできないこともある。

行事が多い2学期には、高学年がいろいろな場面で活躍することが期待される。頑張っていることを認め、できた時には達成感を感じられるような声かけをすることで、自分のよさに気づかせていきたい。



教職員

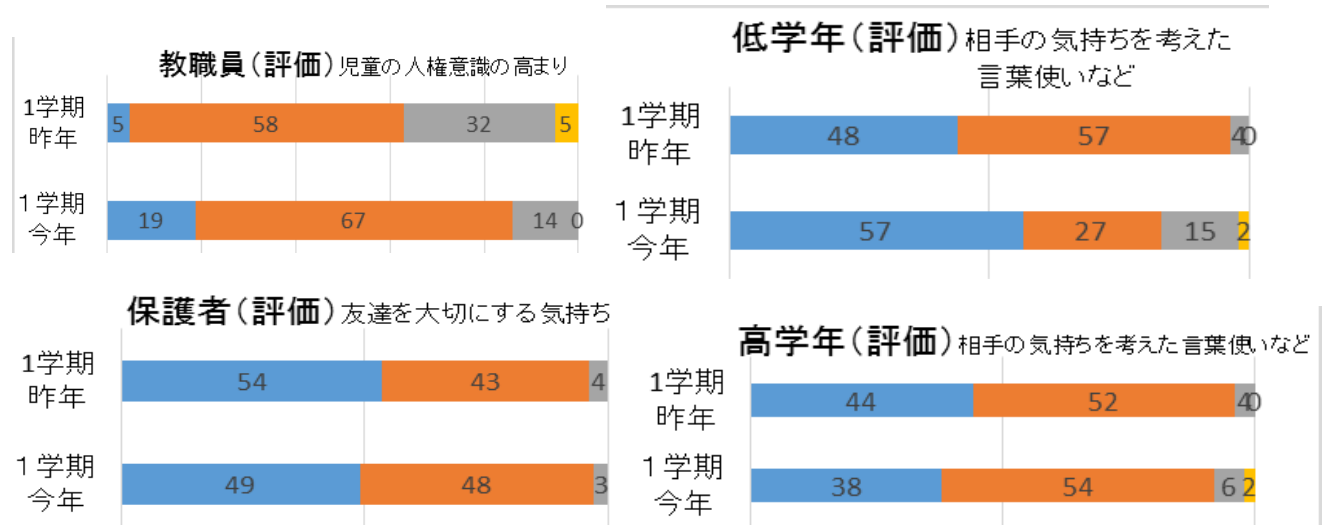
(項目9) 児童の人権感覚や人権意識が育ってきている。

保護者

(項目8) お子さんは、友達を大切にすることが育ってきている。

児童

(項目9) 相手の気持ちを考えた行動・声かけ・言葉づかいができてきている。



〈人権意識について〉

4月から、「相手の気持ちを考えた行動・声かけ・言葉づかい」について集会や学級指導で、繰り返し児童に話をしてきた。友だちを思いやる優しい児童が多い中、相手の気持ちを考えずに相手を傷つけてしまう児童もいた。相手を傷つけるような行動や言葉づかいを見かけた時には、その都度指導を行ってきた。7月には、いじめアンケートを実施した。実施後、すべての児童に個別の面接を行い、友だちとの人間関係で悩んでいる児童については事実確認をして、早期対応に努めてきた。常に児童に寄り添い、気になることがあれば家庭訪問をし、保護者と連携を取り合っていきたい。

2学期からはじまる人権総合学習はもとより、生活全般や学習の中でさらに人権意識を高めていきたい。